

KEM News Letter 8号

2019年度 第23回サマーセミナー及び第21回ハンズオンセミナーが開催されました

KEM第23回サマーセミナー及び第21回ハンズオンセミナーが開催されました

第23回サマーセミナーについて

テーマ：「パラダイムシフト 歯内療法における3Dプリンター技術」

2019年8月29日（木）17:00-19:00

場所：秋葉原コンベンションホールにて

講師：岡崎勝至先生（ニューヨーク大学歯学部歯内療法学講座准教授）

座長：小林優先生、古谷由美子先生

参加人数：101名（有料91名、無料10名）

第21回ハンズオンセミナーについて

同日 14:00-16:00

「歯内療法の最前線を学ぶ～歯内再生治療ハンズオンコース」

講師：岡崎勝至先生（ニューヨーク大学歯学部歯内療法学講座准教授）

参加者：21名

協賛企業：株式会社モリタ

関東歯内療法学会(KEM) 第21回ハンズオンセミナー、第23回サマーセミナーを受講して

福島県開業 中村 慎介

8月29日14時から第21回ハンズオンセミナー、17時から第23回サマーセミナーが開催された。ニューヨーク大学歯学部歯内療法講座准教授の岡崎勝至先生をお迎えし、ハンズオンセミナーでは歯内再生治療、サマーセミナーでは歯内療法における3Dプリンター技術といういずれも最近話題の内容で開催された。ハンズオンセミナーでは根未完成歯における再生療法をどのように行うのか、先生の臨床症例、プロトコルを細かく説明され、模型を用いて実際の手順を示された。歯内療法自体とても繊細な手技が必要となるが、より繊細にCEJからの距

離を何度も測定して行うこと、きちんとトレーニングをしてから実際には行わなくてはならないことを熱く語られていた。サマーセミナーでは現在、ニューヨーク大学歯学部の歯内療法専門医プログラムを指導されている先生から、その内容についてお話された。ご指導されているカリキュラムの内容とCBCTと3Dプリンターを用いての根管内へのガイドを用いたアクセスや、外科処置の際に患者から作られた顔面の模型を用いたトレーニングという初めて見せていただいたものも多く、アメリカの歯内療法専門医のカリキュラムのレベルの高さを痛感する内容だった。あらゆる歯内療法治療ができる専門医を教育するのが使命と熱く語っていた岡崎先生が大変印象的なセミナーだった。

アンケートより抜粋（回収40枚）

Q今回のサマーセミナーに参加されていたか？（満足25枚、普通11枚、不満足3枚、記載なし1枚）

- ・3Dプリンターと臨床がどのように関係しているのか気になったから。
- ・NYUの教育システムの紹介。
- ・新しい3Dプリンターの、歯内療法における可能性が理解できた。
- ・米国の新しい治療方法を学ぶことができた。最先端の歯科教育の現在を知ることができた。
- ・世界の潮流が理解できました。
- ・最新のエンド治療を聞いた。
- ・最先端の予知性の高いエンドのプリンター技術を供覧いただいた。
- ・3DプリンターテクノロジーによりKrのレプリカを作成し、Apicoなどのシミュレーションを行えば当日スムーズにApicoが行えると思いい、技術の進歩に驚いた。
- ・新しい3Dモデルによる安全な治療ができるというすばらしいセミナーでした。
- ・なかなか拝聴することのできないNYUの貴重な話が聞けたため。

Q今回の講演の内容は、今後の診療に役に立ちますか？（満足15枚、普通19枚、不十分3枚、記載なし2枚）

- ・CBCTとCADのマーキングの応用に役立つと思います。
- ・正しい治療法を正確にやる必要があると感じた。
- ・3Dプリントでなかなか使う機会はなさそうに思う。
- ・Krのレプリカ模型を作成する際、金銭的な問題を考えると、保険診療内では厳しいので

はないかと感じた。

- ・先端の話すぎて当院の臨床と直結するかは不明ですが、今後考えていかなければいけないと思いました。
- ・考え方は役立ちます。
- ・明日からできるという内容ではないが、内容は満足。
- ・ちょっと臨床治療に今すぐ直結するような話ではなかった。
- ・診療に役立てたいが、日本ではまだ難しいのではと思いました。
- ・若い人に教えるときに使えるから。
- ・なかなか実際に手をとることは不可能なので、将来的に身近になれば。
- ・全く役には立たないと思います。しかしとてもためになりました。

Q今回よく理解できた事は何でしたか？

- ・3Dプリンターについて、その活用法と応用など。
- ・CBCTとプリンター技術のハイブリッド治療。
- ・3D模型によるシミュレーション教育。
- ・3Dプリンターの歯内療法への応用、可能性。
- ・3Dプリンターを使用したNYUにおける教育システム。
- ・STLとDICOM
- ・歯根端切除時のサージカルガイドの有用性について。
- ・米国の歯科事情、大学教育。
- ・今後の教育には、3Dプリンターによる模型によるトレーニングが必要ということ。
- ・3Dプリンターの精度が高まっていることはわかった。
- ・3Dプリンターの技術の進歩に驚きました。

ハンズオンコースよりアンケート抜粋

Q今回のハンズオンセミナーに参加されていたか？(満足5枚、普通3枚、不十分0枚)

- ・新しいテクニックだった。
- ・REPsについての適用症例について、そして術式についてより深く勉強することができました。
- ・治療のオプションが増えました。
- ・成功率のところのコメントがなく、予後について全く分からないので、悪いのかと思ってしまう。

Q今回の内容は、今後の診療に役立ちますか？

- (満足6枚、普通2枚、不十分0枚)
- ・ケースを選んでですが、行えたらと思います。
 - ・ケースがあれば。
 - ・根尖まで歯髄反応が無くても、幼若永久歯について一度試してみようと思った。
 - ・根未完成歯の症例を持っているので、是非使ってみたいと思います。
 - ・早速実践します。

Q今回よく理解できたことは何でしたか？

- ・填塞するMTAの厚みや方法。
- ・コラーゲンを置くコツ。
- ・感染を残したらいけない。
- ・本当の再生治療ではないということ。でもトライしてみるチャンスはあるということをととても強く感じました。
- ・失活歯でもこの方法が使えるという考え方を知ったことと、術式を憶えられたこと。
- ・プロトコール

Q今回あまり理解できなかったことは何でしたか？

- ・1回目の処置方法。
- ・血液のコントロール。
- ・成功率。
- ・普段MTAを使用していないため、全般的にわかりにくかったです。

2020年度第19回学術大会・総会について

日時：2020年1月26日（日）9:30~16:45

場所：秋葉原コンベンションホール2F

テーマ「再根管治療のここがポイント！一根管充填材の除去」

大会長：平井 順先生（川崎市開業）

実行委員長：岸本 英之先生（東京都開業）

テーマ講演 講師：田中浩祐先生、田中利典先生、吉岡俊彦先生

一般口：5 演題

受賞講演 岡口守雄先生

参加費：会員事前登録9,000円（2020/1/11まで入金確認者）

非会員および会員当日登録 11,000円

学部学生、研修医、大学院生、に限り 会費無料

（ただし事前登録してください。学部学生、大学院生、研修医は身分証の提示を当日お願いします。提示がない場合は非会員扱いとなります。）

詳細Webにて

関東歯内療法学会のホームページをご覧ください。

<http://jea-kantoh.jp/index.php>

皆様からのご意見ご希望などをMailにてお待ちしております。

事務局アドレス：golden-circle@nifty.com